

3. 北海道大学

(1) 全学共通の記入フォーマットで標準化され、平成21年度に「準備学習（予習・復習）等の内容と分量」の記載が義務化。

科目名 [英文名] Course Title (テスト用ダミー科目1)			
講義題目 Subtitle			
責任教員 [ローマ字表記] (所属) Instructor(Institution) 情報システム係(事務局)			
登録状況	前回登録者	本登録日時	前回更新日時
担当教員名 [ローマ字表記] (所属) 情報システム係(事務局)			
科目種別 Course Type			他学部履修等の可否 Open To Other Faculties/ Schools
開講年度 Year	2012	開講学期 Semester	1学期
授業形態 Type of Class		単位数 Number of Credits	2
対象学科・クラス Eligible Department/Class			補足事項 Other Information

※他学部履修等の可否欄を修正する必要がある場合は、設定を変更してください。

データ参照	
2012年度参照	2011年度参照
その他参照	
キーワード Key Words	
<div style="border: 1px solid #ccc; height: 40px;"></div>	
※「授業の目標」から「成績評価の基準と方法」までの5項目は、本登録後変更できませんので注意してください。	
授業の目標 Course Objectives	
<div style="border: 1px solid #ccc; height: 40px;"></div>	
到達目標 Course Goals	
<div style="border: 1px solid #ccc; height: 40px;"></div>	
授業計画 Course Schedule	
<div style="border: 1px solid #ccc; height: 40px;"></div>	
準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework	
<div style="border: 1px solid #ccc; height: 40px;"></div>	
成績評価の基準と方法 Grading System	
<div style="border: 1px solid #ccc; height: 40px;"></div>	

H21年度に追加した項目



テキスト・教科書 Textbooks

Webcat: [全国総合目録検索 \(ISBNの確認\)](#) ※この科目の教科書です。可能な限りISBNを記載して下さい。不明な場合は左の「Webcat」で検索して確認できます。ISBNが入っていないとOPACにリンクしません
 OPAC: [北大蔵書検索](#)

教科書1	書名			ISBN	
	著者名		出版社		出版年
教科書2	書名			ISBN	
	著者名		出版社		出版年
教科書3	書名			ISBN	
	著者名		出版社		出版年
教科書備考					

講義指定図書 Reading List

Webcat: [全国総合目録検索 \(ISBNの確認\)](#) ※受講者に読ませたい図書です。原則附属図書館本分館で1冊ずつ配置します。(水産学部の授業については水産学部図書室へも配置します。)
 OPAC: [北大蔵書検索](#) 可能な限りISBNを記載して下さい。不明な場合は左の「Webcat」で検索して確認できます。

講義指定図書1	書名			ISBN	
	著者名		出版社		出版年
講義指定図書2	書名			ISBN	
	著者名		出版社		出版年

講義指定図書3	書名			ISBN	
	著者名		出版社		出版年
講義指定図書4	書名			ISBN	
	著者名		出版社		出版年
講義指定図書5	書名			ISBN	
	著者名		出版社		出版年
講義指定図書6	書名			ISBN	
	著者名		出版社		出版年
講義指定図書備考					

参照ホームページ Websites

研究室のホームページはこちらから掲載できます Website of Laboratory

備考 Additional Information

登録区分 ※公開してよい場合は「本登録」を選択してください。ただし、本登録後は変更できない項目があります。[上段注意事項参照](#)

仮登録

(2) 授業外学修時間の平均が少しずつ上昇。

(北海道大学「学生による授業アンケート報告書」から抜粋)

本学の全学FD(教育ワークショップ)では平成17年度から「単位の実質化」をとりあげ、授業外学修を促進する授業設計の実習を行っている。授業外学修時間に関する設問は、平成18年度前期の授業アンケート実施分から単位の実質化の進展状況を把握する指標の一つとして導入した。^(注4)表3に示すように、授業外学修時間は毎年少しずつではあるが増加しており、単位の実質化の方策がある程度効果をあげていることが示唆された。しかし、回答者の67%は、授業1回あたり1時間以下しか予習復習をしておらず、大学設置基準・本学通則に定められている学修時間を下回る状態が続いている。授業外の学修を促すしくみは、分野や授業規模に応じて異なっている。引き続き、各部局や科目担当者会議などで授業外学修時間の実態を把握し、本学の教育資源を活用した特色ある手法の開発を期待したい。

表2 授業形態による授業外学修時間 H22

科目区分 授業形態 ^(注5)	専門科目		全学教育科目				
	講義	演習	講義 (1単位)	講義* (2単位)	演習**	外国語	実技
平均授業外学修時間	1.28	1.76	1.07	1.30	1.37	1.32	1.04

*：主題別科目、基礎科目、共通科目（体育学は実技に分類）を含む。

**：フレッシュマンセミナー（一般教育演習）と外国語演習を含む。

表3 授業外学修時間の推移

	回答者の比率 (%)				授業外学修時間 平均値 ^(注3)
	1時間以下	2時間	3時間	4時間以上	
平成18年度* (H17後期・H18前期)	78.4	13.8	4.2	3.6	1.06
平成19年度 (H18後期・H19前期)	76.1	15.5	4.6	3.8	1.11
平成20年度 (H19後期・H20前期)	74.0	17.9	5.0	4.0	1.16
平成21年度 (H20後期・H21前期)	70.2	19.1	6.0	4.6	1.24
平成22年度 (H21後期・H22前期)	67.0	21.0	6.8	5.2	1.32

*：前期のみ



少しずつ増加傾向